

2 山田頭義書簡(緒方中典医宛)

先以

御堅康御座可被為在

奉欣賀候、弟過日帰国

之節ハ火急取紛御無

沙汰に打過千万千罪

帰国後去ル十七八日比方

藩老隠居レヲマチス

肝臓閉塞ニ而甚難渋

罷在困窮至極ニ御座候処

医師手術之方便も別

段無之由、藩中一同

懸念ニ堪へ不申候、就而ハ

此際拳而人事を尽

す而已ニ御座候間、偏に

老兄ニ御依願申上大

坂病院御雇入之蘭

医少時間ニ而も借

用致度候間、何卒

情実御汲察被

成下御周旋奉願候

い細鳳翔艦長

より御聞取可被下候、頓首

三月廿七日

尚々先頃ホートイン

紀州行之例ニ而御

取計被下候得ハ、路費

等是非に藩ニて相償

申候間、是非々々鳳翔丸

乗組ニ而來訪致候様

呉々も御頼仕候、別

に御氣付も有之候得ハ

無御用捨艦長江御申

聞被下必ス被行候様

奉祈候、以上

(奥封ウハ書)

「緒方中典医殿 山田頭義

至急要

」